



糖尿病の治療を 放置した 働き盛りの今

この冊子には、
糖尿病と診断された
「あなたの未来」が
載っています。



はじめに

A.D.2 世紀、トルコ・カッパドキアの医師アレテウスが
すでに糖尿病の患者をこう診たてています。

「この病気はそれほど多くはないが、不思議な病気で肉や手足が尿に溶け出してしまう。
どの患者も腎臓と肝臓が冒され、患者は水を作ることをやめず尿の流れは絶え間ない。
病気は慢性で長い時間かかるが、完成してしまうと溶け出しは急速で、
精神も流れ出し、死もまた早い。患者は短命である」

21世紀のいま、日本人40歳以上男性3人に1人、女性4人に1人は
その患者か予備群で、もはや「国民病」となっています。
糖尿病は初めどこも痛くも痒くありません。しかし糖尿病と診断されると
飲食を徹底的に管理され、ひと駅前で降りて歩く通勤など勧められます。
自覚症状もなく正常なときと変わらないのに苦行を強いられる。
治療の大切さを実感できないどころか、逃げ出したい気持ちにもなります。
しかし放置していると、恐ろしい合併症が静かに確実にあなたの体の中を蝕んでゆきます。
そして末路は医師アレテウスが診たように悲惨で短命です。
そうならば家族、友人、職場に大きな悲しみと、負担や迷惑をかけることでしょう。

この冊子には何年、何十年も前にあなたと同じように
糖尿病やその気がある、と宣告された働き盛りの先輩方の足跡が載っています。
治療をないがしろにした人、挫折を重ねた人、
病気に対して無知だったことを後悔する人、そして優等生患者。
あの時、治療を投げ出さなかったら失明や人工透析にならずにすんだのに、という後悔が。
あの時、くじけなかったから、いま普通に生活ができているという安堵が。
この冊子に載っている先輩方の足跡は、「あなたの未来」にきっと当てはまるでしょう。

21世紀の医療は大いに進んでいます。
糖尿病の正しい知識を身につけ、治療を受け続けてください。
あなたの家族のためにも。いつまでも元気で働き続け充実したあなたの人生のためにも。